

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 16 No.10 2014年05月31日号

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp

Copyright 2014 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

■NTT アドバンステクノロジー、HD ビデオ会議システム「Aver EVC シリーズ」の本格販売開始

NTT アドバンステクノロジー株式会社(神奈川県川崎市)は、AVer Information 社(台湾新北市)が開発・製造するHDビデオ会議システム「EVCシリーズ」を5月15日から本格的に販売開始する。(5月15日)



EVC100 と EVC900 (製品写真：NTT アドバンステクノロジー)

	EVC100	EVC125P	EVC300	EVC900
通信仕様	H.323/SIP 128kbps~4Mbps			
音声・映像プロトコル	音声:G.711, G.722, G.728, G.722.1/G.722.1C 映像:H.264, H.263, H.263+, H.261			
その他の標準規格	H.224 / H.281, H.225, H.245, H.323 Annex Q, H.460			
映像出力解像度(MAX)	720p/30fps		1080p/30fps	
オーディオ機能	・オートゲインコントロール (AGC) ・アドバンスドノイズリダクション ・アコースティックエコーキャンセラー (AEC)			
録画機能	なし	USBメモリースティックワンタッチ録画機能		
内蔵MCU機能	なし	FullHD 4拠点	FullHD 10拠点	
標準搭載カメラ	HD 固定焦点カメラ 200万画素 4倍デジタルズーム	HD PTZ カメラ 200万画素 光学16倍ズーム		

EVC シリーズ (表：NTT アドバンステクノロジー)

EVC シリーズは、シンプルな機能のエントリーモデル(EVC100)から、最大10拠点の内蔵MCU機能を有するモデル(EVC900)まで4機種のラインナップを揃えている。

ビデオ会議の主要メーカーとの互換性(H.323/SIP)を備えるとともに、優れたコストパフォーマンスを有している。新規導入だけでなく既存のビデオ会議に拠点追加を行う場面など導入規模や用途にあわせて経済的な導入が可能という。

ビデオ会議の様子はUSBメモリに簡単に録画でき、本体での再生やパソコンでの再生にも対応している。またGUIがシンプルで操作が簡単であることも特長のひとつだ。初めての人でもすぐに利用可能だ。

NTTアドバンステクノロジーは、これまで20年にわたりビデオ会議主要メーカーの正規代理店としてマルチベンダー構成による数多くのビデオ会議システム販売の実績があり、新規の導入にとどまらず既存システムへの拠点追加においてもユーザが安心して導入できるとしている。

エントリーモデルの標準価格は25万円(税別)。構成に応じて価格は異なる。なお、EVC900の販売開始は6月からの予定。

AVer Information社は、1990年に台湾で創業。書画カメラなどのプレゼンテーション機器やテレビ会議システムおよびセキュリティレコーダーなどを設計・製造・販売している。書画カメラでは世界一のシェアを持っているという。

今回発表のEVCシリーズの窓口は、NTTアドバンステクノロジー グローバルプロダクツ事業本部 メディアコミュニケーションプロダクツビジネスユニット ビデオ会議システム担当。

■NEC エンジニアリング、フルHDに対応したテレビ会議システムを発表、「MEDIAPPOINT(メディアポイント)シリーズ」のラインナップを強化

NEC エンジニアリング株式会社(神奈川県川崎市)は、「MEDIAPPOINT(メディアポイント)シリーズ」のラインナップを強化し、フルHDに対応したテレビ会議システム「MEDIAPPOINT HD」を5月21日より販売開始する。(5月21日)

MEDIAPPOINT 低コストながら1080pに対応し、プレゼンテーション機能を標準搭載。テレビ会議映像を表示しながら

プレゼンテーション資料の共有(最大 30fps)がおこなえる。同社によると、このプレゼンテーション機能は低価格機ではオプションとされていることが多いという。



フル HD 対応テレビ会議システム「MEDIAPPOINT HD」(製品写真: NEC エンジニアリング)

また、本体にUSBポートを装備しているため、映像や音声をUSBメモリに保存・記録できる。加えて、システムの接続や設定は、画面上に表示されるアイコンをリモコンで選ぶだけで簡単に操作ができる。

構成は、本体(1台、B5サイズ相当の大きさ。)、専用カメラ(1台)、専用マイク(1台)、リモートコントローラ(1台)となっている。あと付属のマイクケーブル(5m)、LAN ケーブル1本(3m)、AC アダプタ、HDMI ケーブル1本(1.8m)、カメラケーブル1本(3m)、VGA ケーブル 1 本(1.8m)などもある。

価格は 398,000 円(税別)。出荷日は 6 月 2 日から。販売目標は、今後 3 年間で 6 億円の販売を目指している。

今後、議事などの録画映像を PC で再生するためのソフトウェアや、HD 対応多地点テレビ会議システムなど、さらなるラインナップの強化を予定している。

■エイネット、アジア災害対策向け BCP パッケージ販売開始

エイネット株式会社(東京都千代田区)は、フィリピン、インドネシアの行政機関や企業を対象とした災害対策向け「FreshVoice BCP パッケージ」を開発し販売を開始した。(5 月 22 日)

FreshVoice BCP パッケージは、同社が販売しているソフトウェア型テレビ会議システム「FreshVoice」を活用したもの。自治体や企業などの導入を容易にしている。

パッケージは、「回線インフラの提供」、「情報共有やワークフローを管理するサーバの設置」、「アプリケーションの提供」、「定点カメラ等の設置」などから構成されており、災害時の、通信手段の確保から、情報収集、情報伝達、ワークフローの管理、映像によるコミュニケーションを可能にする。

自然災害が多発しているフィリピンやインドネシアでは、災害時に自治体や企業がいち早く被害状況を把握し、迅速な対策を講じることで被害を最小限にとどめるための対策が求められているという。また、一方で日本においては、東日本大震災を経験した中で、銀行や企業から、エイネットの持つネットワーク構築のノウハウと映像技術を活用した危機管理システムを開発してほしいという要望が同社に多く寄せられていたという。このような背景から、この度、BCP パッケージを商品化した。

FreshVoice は、国内 3,000 社を超えるユーザに利用されており、富士カメラ総研調べによると、国内のテレビ会議/Web 会議システム出荷数で、8 年連続(2005 年～2012 年)第一位を記録しているという。同社では、国際標準のテレビ会議/Web 会議システム開発・販売から、セキュアな業務ネットワーク構築・運用まで、企業経営に貢献する ICT 活用をトータルでサポートしている。

■IPEVO と来夢、iOS デバイスでも使用可能な新型 Web 会議スピーカーフォンを発売

株式会社来夢(三重県鈴鹿市)は、台湾の PC 周辺機器メーカー IPEVO(アイピーボ)社製の Web 会議スピーカーフォン「VX-1」を 6 月 2 日に発売する。来夢は IPEVO 社の日本代理店。(5 月 28 日、掲載:PRTIMES)

VX-1 は、パソコン(Windows・Mac)だけでなく、iPhone や iPad、iTouch に対応し、Skype、Google Hangout、Facetime、などの通話アプリで使用可能。

マイクは無指向性が 1 個、単一指向性が 4 個を搭載。またスピーカは 1 個搭載。5 個のマイクにより、適切な集音を実現しているとともに、エコーキャンセラーとノイズリダクションによりクリアな通話を実現している。加えて、マイク・ゾーンコン

ロール機能で、簡単なボタン操作によりマイクを切り替え、必要な音声に集中した集音が可能となっている。



iPhoneに接続した VX-1(写真:IPEVO、来夢)

電源は USB バスパワー。インターフェイスは USB2.0 フルスピードタイプ B、そして 3.5mm ステレオミニピン。対応 OS は、Windows(8/7/Vista/XP)、MacOS 10.4 以降、iOS。VX-1 の販売価格はオープンとなっている。

IPEVO 社は、Web 会議スピーカーフォン(VX-1/ X1-N6)のほか、書画カメラや、インタラクティブホワイトボードなども販売している。

来夢は、1996 年設立。輸入卸・販売。ワンタッチ式テント「イージーアップ」、PC 周辺機器「アイピーボ」「LED ライト内蔵帽子「パンサービジョン」など輸入している。

■フルーク・ネットワークス社、2 芯光ファイバー配線の試験時間を 1/2 に短縮できる OTDR 認証 tester を発売

米フルーク・ネットワークス社の日本法人である株式会社 TFF フルーク社(東京都港区)は、低価格・高機能の OTDR 認証 tester「OptiFiber Pro OTDR 2(オプティファイバー・プロ OTDR 2)」を 5 月 29 日より発売する。(5 月 27 日)

OptiFiber Pro OTDR 2 は、光ファイバー・ネットワークの不良解析と認証試験の両方ができる、軽量コンパクトながら堅牢なボディを持ち、スマートフォン感覚のタッチパネル操作性を実現した OTDR(光パルス試験器)。光ファイバー配線(伝送距離・損失、断線検出など)の検査・試験・認証・トラブルシューティング・文書化等を 1 台で行える。

写真左 OptiFiber Pro OTDR 2 (写真:TFF フルーク社)



業界に先駆けた「LoopBack OTDR 機能」(特許申請中)により、1回の操作で 2 本の光ファイバー・リンクを双方向で試験でき、試験時間を従来の 1/2 に短縮できるほか、業界最速クラスのトレース時間(1 波長の自動テストで約 5 秒、クイックテストで最短 2 秒)を実現している。そのほか、データセンターの技術者が時間をかけずに必要な認証試験を行える「自動 DataCenter 設定機能」など数々の機能を搭載している。

写真上:操作画面例 (写真:TFF フルーク社)



マルチモードでのイベント・デットゾーンは 0.5m と業界最小クラスを達成し、より正確な障害箇所の迅速な特定が行えるようになっている。

今回の OptiFiber Pro OTDR 2 の提供開始と同時に、業界規格に基づく端面検査の自動合格判定時間をわずか 2 秒以下に短縮した光ファイバー端面検査ツール「FI-7000 FiberInspector Pro(ファイバーインスペクター・プロ)」や、試験時間を最大 95%(同社製品比)まで削減できるシングルモード MPO 配線用に設計された光ロス・テスター「シングルモード MultiFiber Pro(マルチファイバー・プロ)」も同時に提供開始する。

これらにより、データセンターや大規模企業ネットワークにおいて、光ファイバー認証工事およびネットワーク・インフラ運用管理のトータルな省力化が可能となる。販売価格は、93 万円(税別)から。

製品・サービス動向-海外

■シスコシステムズ社、デスクトップ向けビデオ会議システム2製品とクラウドサービスを発表

米シスコシステムズ社は、北米で開催された Cisco Live 2014 において、デスクトップ向けビデオ会議システム「DX70」と「DX80」の 2 モデルと、クラウドサービス「Collaboration Meeting Room(CMR)」を発表した。(5 月 19 日)

今回の発表は、先般 3 月に発表された MX シリーズや「Cisco TelePresence SX10」など会議室向けの新製品に続く、パーソナルユースに焦点を当てたデスクトップ製品が特徴となっている。デスクトップ製品は従来のイメージからすると、幹部などの使用を想定していることが一般的だったが、シスコシステムズ社は、DX70 と DX80 の価格を抑えることで、全てのオフィスワーカーにビデオ会議を広げていく狙いがある。



DX80(23 インチディスプレイ搭載) (写真:シスコシステムズ社)



DX70(14 インチディスプレイ搭載) (写真:シスコシステムズ社)

DX70 と DX80 は、Android ベースで開発されており、タッチスクリーン操作とフル HD(1080p)を特長とした、コーデック・カメラ・ディスプレイ・マイク・スピーカを装備した一体型の

ビデオ会議端末。北欧とカリフォルニアのそれぞれのデザインセンスを融合した「Scandafornian」デザインという。

API にも対応しており、CRM や業務アプリケーション、ホワイトボード機能などとインテグレーションも可能という。

また、DX80 は、話者の声にフォーカスし部屋の音(background noise)を軽減して相手に伝える「Intelligent Audio」(新機能)や、スマートフォンと DX 端末をペアリングする「Intelligent Proximity」(既発表済)を搭載している。

そのほか、端末共有にも対応しており、DX 端末に個人の ID でログインすると、その人にあつた設定やコンタクトリスト、通話履歴などが端末画面に用意される。

一方、クラウドサービスとしては「Collaboration Meeting Room(CMR)」を発表。シスコシステムズ社のビデオ会議システムや「WebEx」、「Jabber」のほか、国際標準規格に対応したビデオ会議システム、あるいは、マイクロソフト社の「Microsoft Lync」(Lync 2010、Lync 2013)にも対応している。会議方法は、スケジュールミーティング、インスタントミーティング、常設会議室(always-on meeting room)に対応する。

シスコシステムズ社としては、クラウド、オンプレミス、ハイブリッドをユーザの用途に合わせて提供するとしている。

以上のほか、今回にあわせて、「IP Phone 8800 シリーズ」の発表や、シングルサインオン・モバイルコールセキュリティ・アプリケーション統合・ビデオインターワーキングなどのインフラの機能拡張も行っている。

ビジネス動向-海外

■Arkadin 社、H.R. Shiever 氏をオンラインビジネスユニットのマネージングディレクターおよびアルカディン執行役員に任命

Arkadin 社(アルカディン)は、オンラインビジネスユニットのマネージングディレクターおよびアルカディン執行役員に、H.R. Shiever 氏を任命したと発表。(5 月 22 日)

H.R. Shiever 氏は、新事業部であるオンラインコラボレーションビジネスユニット統括のほか、アルカディン社と NTT

コミュニケーションズとの間のグローバルな営業連携・調整を行うといった2つの役職を兼任する。2014年1月にNTTコミュニケーションズは、アルカディン社を買収しているため。Shiever氏は、Olivier de Puymorin氏(アルカディン社CEO)の直属として香港事務所で業務を行う。

Shiever氏の任命にあたっては、同氏のオンライン分野での知識に加え、アジア太平洋地域での営業・マーケティングの深い専門知識が評価されたようだ。

アルカディン社に入社する前は、シトリックス・システムズ社でSaaS部門アジア太平洋地域統括マネージャー兼バイスプレジデント。2004年に発足した同部門の成長に大きく貢献した。加えて、同地域内の大手テクノロジー企業での業務を20年以上の経験もある。カーネギー・メロン大学の工業経営経済理学士を取得している。

アルカディン社は、NTTコミュニケーションズのグループ企業として、ユニファイドコミュニケーションおよびコラボレーションサービスの事業を33か国52拠点で展開する。日本法人は、アルカディン・ジャパン株式会社(東京都港区)。関西営業所もある。

セミナー・展示会情報

<国内>

■BIG PADを活用したクラウド型Web会議サービス「TeleOffice」体感セミナー

日時:6月11日(水)14:00~16:00
*4月以降9月まで毎月2回開催
会場:シャープ株式会社 東京支社
主催:シャープビジネスソリューション株式会社
詳細・申込:<http://www.sharp-sbs.co.jp/event/regular/teleoffice-a.html>

■アバイア・モバイル・コラボレーション・セミナー

日時:大阪6月3日、
福岡6月5日、東京6月24日、札幌6月27日
会場:大阪(グランキューブ)、福岡(TKPガーデンシティ博多)
東京(ベルサール八重洲)、札幌(アスティ45内ACU会議室)
主催:日本アバイア株式会社
詳細・申込:http://www.ibma.jp/avaya_event/

■後悔しないWeb会議を選ぶために事前チェックすべき「6つのポイント」セミナー~大阪・東京で同時開催！~

日時:6月12日(木)15:30~17:00(受付:15:00)
会場:東京:キヤノンソフトウェア 本社(東京都品川区)
大阪:キヤノンソフトウェア 大阪堺筋事業所(大阪市中央区)
主催:キヤノンソフトウェア株式会社
詳細・申込:
東京:<https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/204>
大阪:<https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/205>

国内その他:<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

*イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/
>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社
<http://www.catalog-square.co.jp>

情報発信について

CNAレポート・ジャパン(橋本啓介)では、国内外における、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニュースメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

下記配信では、市場トレンドを見ていく上で参考になるとと思われる情報を精査したうえで配信しています。皆さまの情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

定期レポート(15日・月末発行):各社からのプレスリリース、CNAレポート・ジャパン直接取材による記事

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信):定期レポートであつかっている各社からのプレスリリースや直接取材に加え、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cnar.jp>「情報配信について」をご覧ください。

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。
今号で掲載していない記事がありますが、次号以降レポートする予定です。
次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介